令和８年度　校内研究の概要

研究主題	「『ゴール』を見据えてチャレンジし続ける生徒の育成」（３年次） ～意欲と見通しを持って学び合う姿を目指して～
研究主題設定の理由	本校の教育目標は「変化する時代を生きぬく、優しさと逞しさを持つ生徒の育成」である。その目標に向け、「自他を尊重し、主体的に考え、行動できる生徒（＝優しさ)」、「学びを生かし、夢や目標に向かって挑戦する生徒（＝逞しさ)」を目指す生徒像として捉え直し、本主題を設定した。 昨年度は、「問いを引き出す学習課題設定の工夫」、「伝える力を育む学び合いの工夫」、「自己調整力を育む単元計画の工夫」の３点を研究の柱として設定し、それに基づいて研究を進めた。特に「自己調整を育む単元計画の工夫」に重点を置き、単元計画に評価基準と振り返り記載欄を設けた「単元シート」の活用を提案した。単元のはじめに、生徒が学習のゴールを把握し、学習過程の中で自分の位置を確認できるようにすることで、学びの循環を意識した授業改善を図ってきた。その結果、生徒対象の学習アンケートの結果において、「単元を通して、どのような力を身につけるのかを理解しながら進めることができた」という項目において改善が見られた。 一方で、振り返りシートの活用方法や、振り返りをもとに自分の考えを再構築していく過程に課題が見られた。また、生徒の実態として、基礎学力や学びに向かう意欲にばらつきが感じられた。さらに、生徒対象の学習アンケートでは、「発表」に関する項目がやや低い結果となり、表現力や対話的な学びの質を高める必要性も明確になった。 これらの課題を踏まえ、研究３年目となる今年度は、これまでの取り組みをさらに発展させ、生徒の学びをより主体的で深いものに改善していきたい。具体的には、生徒の意欲と問いを引き出す課題設定を行い、単元の導入で「学びたい」という意欲を喚起することを目指す。また、各教科で習得した知識・技能を実際に使いこなせるレベルまで確実に高められるような学習場面を意図的に設定していく。さらに、単元計画と振り返りの在り方を再検討し、学びの見通しと振り返りが結びつくような仕組みを整えていき、生徒が自分の学びをその都度調整できるようにしていきたい。 以上のことから、本年度は、「意欲と問いを引き出す課題設定の工夫」、「対話を通して考えを深め表現力を高める工夫」、「学びの見通しを持ち、自己調整を促す振り返りの工夫」の３点を重点とした。生徒自身が問い立て、ゴールを見据えて学習の見通しを持ち、対話を通して学びを深めながら、自分の考えを再構築して学び続ける姿を目指して本研究を進め、本研究主題の総括としたい。
研究の目標	①　生徒が自らの学ぶ意欲をもとに問いを立て、課題解決に必要な情報を集めて整理し、次の問いや学びの方向性を生み出していく力を育成する。 ②　対話を通して考えを深め、自分の考えを再構築するとともに、習得した知識・技能を活用して自分の考えを伝える力を育成する。 ③　学びの見通しを持ち、振り返りを通して自らの学びを調整し、次の学びへと生かしていく力を育成する。

研究の内容	**① 意欲と問いを引き出す課題設定の工夫【課題設定】** ・生徒が「知りたい」「調べたい」と感じ、学ぶ意欲と見通しを持てる学習課題を設定する。 ・課題解決に必要な情報を自ら集め、整理しながら自問自答を通して問いを深めていく場面を設定する。 ・整理した情報をもとに、次の問いや学びの方向性を生み出す。 **② 対話を通して考えを深め表現力を高める工夫【協働の学び】** ・根拠や思考過程を可視化しながら、一人ひとりが自分の考えを深め、生きて働く「確かな知識」の習得と各教科の資質・能力を育成する学習場面を設定する。 ・他者の考えに触れることで視野を広げて自分の考えを再構築していくとともに、情報共有を通して必然的な対話が生まれる学習環境を整える。 ・習得した知識・技能を、発表や記述などの表現活動において活用できるよう工夫し、学んだ内容を自分の言葉で伝えられるようにする。 ・ＩＣＴ機器を活用して情報活用能力を向上させるとともに、個別最適な学びと協働的な学びを通して、多様な生徒が誰一人取り残されない学びを実現する。 **③ 学びの見通しを持ち、自己調整を促す振り返りの工夫【学びの循環】** ・単元目標と、単元における資質・能力を生徒と共有し、学びへの見通しを持つ。 ・評価規準をもとに、生徒が自らの学びを調整し、次の学びへつながる改善を行えるよう単元計画と評価を連動させる。 ・振り返りを通して、生徒が学びの意味や価値を捉えられるよう支援する。
研究の方法	（1）各教科部会において「教科目標」を見直し、今年度の主題・副題に迫る取り組みを示す。 （2）個人研究として、選択したテーマに沿って自分の課題を設定し、研究を進める。 （3）教職員全体が３つのテーマ「問いを生む課題づくり」「対話で深める学び」「見通しと振り返りのデザイン」に分かれ、話し合いを重ねながら研究を深めていく。 （4）授業研究会では、各テーマの代表者（各グループから１～２名）が授業を行う。 （5）ICT 機器の積極的な利活用を推進し、その活用状況を適宜記録する。（職員室「校内研究コーナー」での紹介等）また、ICT 活用に長けた教員が実践例を紹介し、教科の枠を超えて全ての教員が授業の中で ICT 機器を効果的に活用できる機会を確保する。 （6）年２回の学習アンケートを実施し、生徒の学びの変容を把握するとともに、成果と課題を明らかにする。
研究の計画	４月　校内研修会①（研究の概要について） ５・６月　教科部会（教科目標・振り返りシートの検討） ７月　第１回校内研究会【テーマ別交流会】・ICT 研修会　　第１回学習アンケート １１月　第２回校内研究会【授業研究会】 １２月　教科部会にて、校内研究のまとめ　　第２回学習アンケート １・２月　研究推進委員会にて今年度の成果と課題のまとめ　　個人研究のまとめ ３月　研究紀要によるまとめ・次年度へ向けて研究構想の検討